



^ 13
2906
1



春曉八幡住祢二編
 聞成待あり惜むわらも守羞系列室の相
 けいど。彼奈可早の土地の云察よハ腰
 鐘通稱。進出。海為手
 命の補。夕。様

春曉八幡住祢二編
 早稲の年

~13
2906

13
 2906
 1

昭和九年
 七月五日
 晴末

一男二女或る二女に思ひ頼成志

婿嫁成死しあはく女徳を守りしの一冊

あまの。宗男子を浮世の縁を結び末

不顧ふ人情の所業成りしむる此身は家

有るはよりの清考を在

善止悪の權を忠信孝貞の道自然

應報の心とて會得する。身はやむ

終乃一品とて

千崎天保七申首夏晴島とて

徳の心とて

江戸人情の作者の

為水春水徳る

舟乃中
 水に濡る
 鮮き干す
 小袖の
 誠と實と意



丸漏町の
 弥三郎

夜更小
 涙の月
 松奉
 福本の
 君



福本の
 君



秀八



梅吉

怪談

同。梅吉の番のさくら坂
あつちうと先小吉の體をも
かゝりて陽て住るる
朝多あふ姉妹分
あつちうと
苦累の色の中
今も残る



とを懐勝せし一胎の胎は小
 迎ぐはらう入病とあつて
 勞る材をいふはむと遠き
 入る方よりいひつゝ人の
 一を給方よりいひつゝ親
 助るる命をいふはむと
 けしむる命をいふはむと
 ありあつていふはむと



舟
 舟
 舟



